

(仮称)体験学習施設整備基本計画

令和3年3月



海南省

目次

はじめに.....	1
1. 計画策定の目的.....	1
2. 背景.....	1
3. 計画策定の流れ.....	2
1章 基本的な考え方.....	3
1. 整備方針.....	3
2. 施設の役割.....	5
3. 意見交換会.....	6
2章 施設計画.....	8
1. 施設規模.....	8
2. 施設機能.....	8
3. 面積表.....	10
4. ゾーニング.....	10
3章 展示計画.....	11
1. 展示の基本的な考え.....	11
2. 展示の構成・テーマ.....	11
3. 企画展示.....	13
4章 体験学習計画.....	14
1. 体験学習の基本的な考え.....	14
2. 体験学習プログラム.....	14
5章 管理運営計画.....	16
1. 運営体制.....	16
2. 運営.....	16
3. 名称.....	16
4. 集客（誘導について）.....	16
6章 事業計画.....	17
1. スケジュール.....	17
2. 概算事業費.....	17

1. 計画策定の目的

「(仮称)中央防災公園」(以下、「中央防災公園」)の更なる魅力の向上と学習機能の充実を図るため、歴史を通じて防災を体験できる施設「(仮称)体験学習施設」(以下、「体験学習施設」)を整備する取り組みを進めており、令和2年6月に施設整備についての基本的な考え方や方針を示した「(仮称)体験学習施設整備方針」(以下、「整備方針」)を策定しました。

本計画は、整備方針を踏まえ、具体的な機能やその配置等を明確にするため、策定するものです。

2. 背景

近年、全国的に大規模災害が起これ、防災に対する関心が増している中で、市においては、防災に関する展示や講座等が限られており、より記憶に残る体験学習的なイベントもほとんどない状況にあります。

一方で、海南市は「井澤弥惣兵衛」という全国的にも治水工事で功績がある偉人の出生地でもあり、先人の知恵や歴史を知ることで、防災教育に寄与できる可能性があります。海南市の歴史や偉人を学ぶ歴史文化施設である歴史民俗資料館は、昭和57年の開館から相当年月を経ていることから、施設の老朽化をはじめ、様々な課題が生じています。

そのような中、「海南市中央公園(わんぱく公園)」を「中央防災公園」として拡張整備を行う計画があり、市における防災の展示・体験学習に関する課題と歴史民俗資料館が抱える課題の解決ができ、中央防災公園に「歴史文化機能」を加えることで、更なる賑わいの創出が期待できるものと考え、中央防災公園内に歴史・防災を知り、体験できる施設の整備を目指します。

【防災展示等の課題】

- ・ 防災に関して学習する施設が少ない。
- ・ 市主催の研修会等を除き、防災に関して学習する機会が少ない。
- ・ 体験学習的なイベントがほとんどない。

【歴史民俗資料館の課題】

- ・ 老朽化が著しい。
- ・ 見るだけの展示が多く変化が少ない。
- ・ 体験学習スペースが狭くプログラムが限定されている。
- ・ 十分な資料の保管スペースがなく、資料の有効活用が図れていない。

3. 計画策定の流れ

体験学習施設の整備については、市内部での検討を開始し、その後、歴史・文化財並びに公園・防災を専門とする外部有識者からの意見聴取も行った上で、令和2年6月に整備方針を策定しました。

基本計画は、整備方針を踏まえ、市民や有識者から体験学習施設の魅力・賑わいづくり、防災など多方面に関する意見を取り入れ、以下の過程を経て策定しました。

基本計画策定の流れ

【令和2年度】

第1回（仮称）体験学習施設整備検討懇話会 【8月26日】

報告：（仮称）体験学習施設整備方針について

議題：（仮称）体験学習施設整備基本計画（骨子案）について

（仮称）体験学習施設の整備に向けての意見交換会 【9月26日】

内容：来たくなる体験学習施設とは

「どんな展示・体験学習が必要か」「どんな機能があればいいか」

第2回（仮称）体験学習施設整備検討懇話会 【10月19日】

議題：（仮称）体験学習施設整備基本計画（素案）について

第3回（仮称）体験学習施設整備検討懇話会 【12月21日】

議題：（仮称）体験学習施設整備基本計画（案）について

パブリックコメントの実施

【令和3年2月1日～2月22日】

計画の確定

【令和3年3月】

1章 基本的な考え方

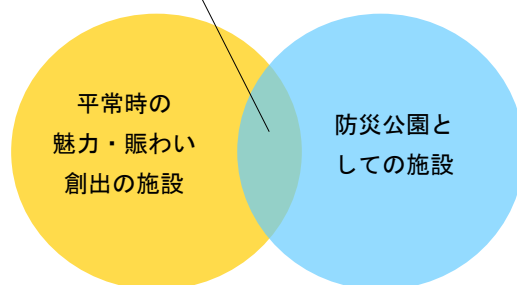
1. 整備方針

基本理念やコンセプト等については、中央防災公園内に整備することから、「（仮称）中央防災公園整備基本計画」（以下、「公園整備基本計画」）の理念・方針に基づき、整備方針の中で次のように定めています。

（1）基本理念・基本方針

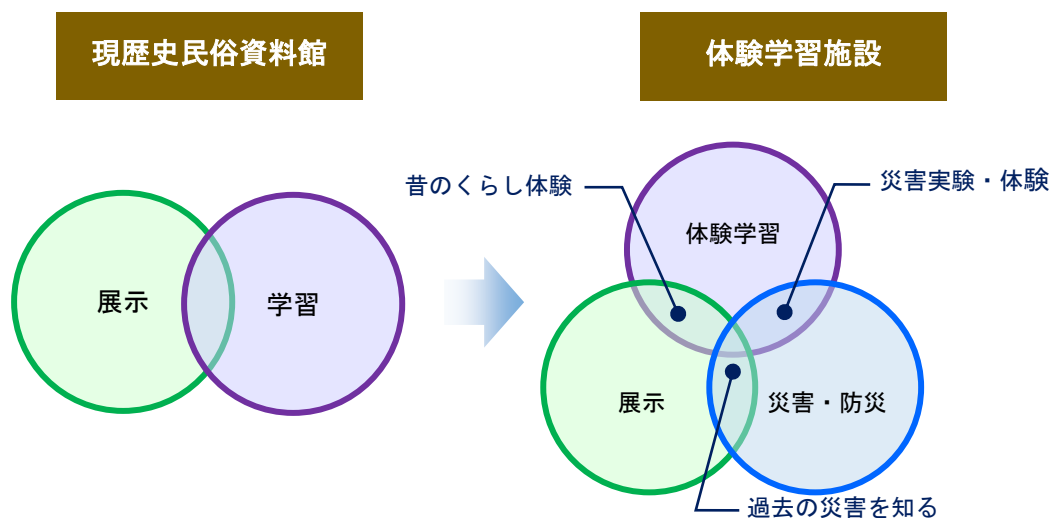
公園内に整備することにより、公園整備基本計画の理念・方針に基づき、魅力・賑わいの創出と防災公園としての関連性を考慮するものとする。

平常時の賑わいと、防災の両方に役立つ機能



（2）施設のリニューアル方針

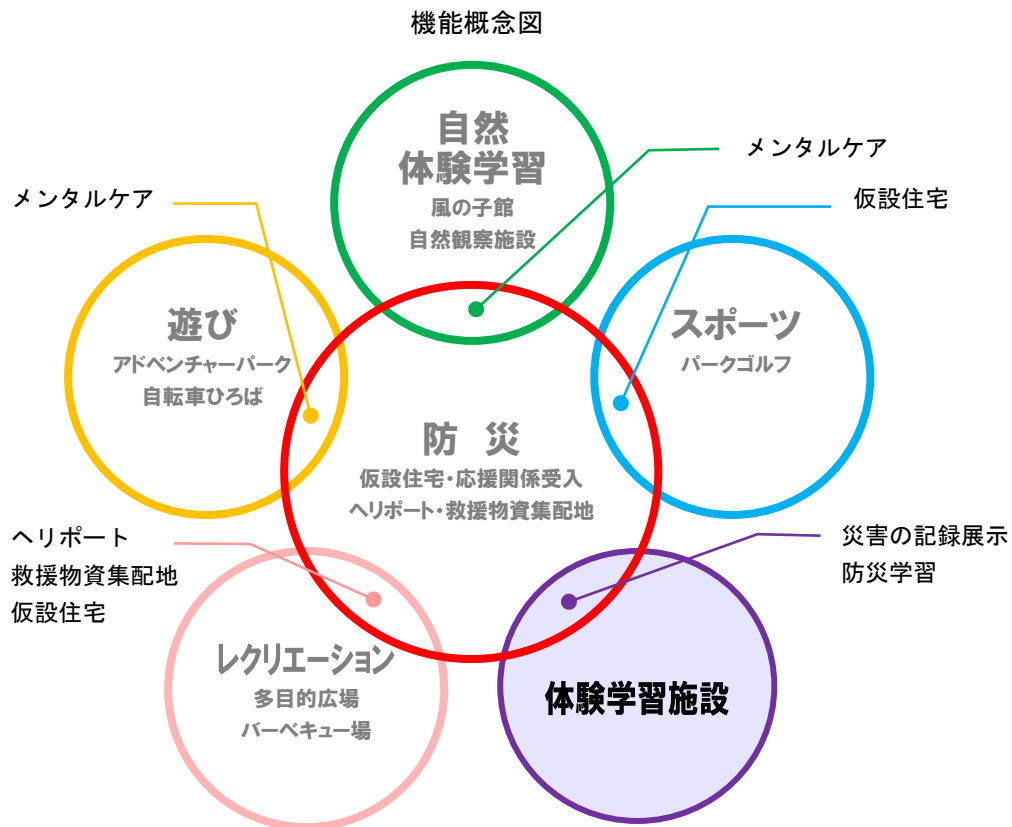
上記の考え方を踏まえ、従前の展示・学習機能に加え、体験学習、災害・防災に関連する展示や実験・体験を取り入れた複合型の「体験学習施設」を目指すものとする。



(3) 中央公園における体験学習施設の役割

公園整備基本計画における導入機能として、防災を核にスポーツ、レクリエーション、遊びの機能が新たに導入されるほか、和歌山県立自然博物館の新館移転地としても準備を進めている。

体験学習施設を公園内へ整備し、「歴史文化機能」を加えることで、公園の更なる魅力向上と学習機能の充実が図れる。



(4) 施設のコンセプト

馴染みある郷土学習と防災学習の体験プログラムを合わせることで、歴史を通し災害を「忘れない」工夫を盛り込みます。

① 学習

治水事業に貢献した郷土の偉人の業績を紹介するほか、本市の歴史を辿り、時代背景とともに過去の大災害等について学びます。

② 体験

ものづくり体験などの歴史や文化の体験とともに、自然災害の仕組みや危険性の実験・体験プログラムを実施します。

2. 施設の役割

市における防災関係の展示・体験学習と歴史民俗資料館についての課題、並びに立地場所である公園整備基本計画の基本理念を踏まえ、体験学習施設のより具体的な役割については、次の5つとします。

① 展示 ～来館者自らが楽しく学べる施設～

海南市の歴史や災害、防災知識について、より楽しく学ぶことができる工夫を施し、次世代を担う子どもたちへ伝承する施設とします。

② 体験学習 ～過去から学び、未来に生きる体験ができる施設～

歴史・文化並びに自然災害の仕組みや危険性、防災について、学ぶことができる実験・体験プログラムを提供する施設とします。

③ 収蔵 ～資料を適正に保存し、活用する施設～

貴重な資料を適切な環境で保管するとともに、市の関連施設との連携体制を整え、海南市の歴史や災害・防災情報を蓄積・活用する施設とします。

④ 賑わい ～世代・地域を超えた交流を生み出す施設～

中央防災公園に来場する多くの方に海南市内の史跡や名所についての魅力を伝え、まち全体の回遊性を促す施設とします。

⑤ 防災 ～災害時に機能する施設～

中央防災公園内に立地することを踏まえた、災害時に機能する施設とします。

3. 意見交換会

体験学習施設の整備にあたり、より多くの方に来てもらえるよう、市民等のニーズを把握するため、意見交換会を実施しました。

(1) 実施概要

- 実施日：令和2年9月26日（土）19時～21時
 - 場所：海南 nobinos ノビノスホール
 - 参加者：参加資格 ・体験学習施設の整備に関心を持ち、積極的に意見を述べる
ことができる人
・海南市内に在住または在勤している人
- 募集方法 公募（募集期間：令和2年9月1日（火）～15日（火））
参加者数 15名（平均年齢47歳）
- 実施方法：ワークショップ形式 3班に分けて意見交換
 - テーマ：来たくなる体験学習施設とは
「どんな展示・体験学習が必要か」「どんな機能があればいいか」




(2) 意見交換会での主な意見

※網掛けは展示手法に関する意見


Aグループ

展示	体験学習
プロジェクションマッピング 大型・ミニシアター クイズ形式 サブカルチャーに特化した企画展 井澤弥惣兵衛	昔の暮らし・道具体験 防災・サバイバル体験(子どもの基地づくり) 火おこし、糸つむぎ、機織り体験など 飯ごう炊さん、災害飯体験 防災グッズづくり 複数の選べる学習コース
機能等	
交流スペース 保存食を買えるショップ 語り部・自然博物館との連携 タブレットを使ったクイズラリー	

Bグループ

展示	体験学習
<p>過去～未来の海南市のジオラマ 津波の来襲予想・浸水地域が分かる展示 触れることができる展示 発掘体験(宝さがし・土器発掘) 動きに反応するデジタルアート 室内遊具(滑り台、昔の暮らしモチーフ) 災害時に役立つアイデア展示 井澤弥惣兵衛、小野田寛郎、栃乃和歌</p>	<p>作って持って帰れる物の体験 衣装コーナー(変身体験) 起震車体験 火おこし、漆塗り、タワシ巻体験 災害時に役立つ知識の体験(料理など)</p>
機能等	
<p>施設限定の郵便ポスト (すさみ町海中ポストのようなもの) 特産品の食べ物 わんぱく公園を使ったオリエンテーリング スタンプラリー</p>	

Cグループ

展示	体験学習
<p>プロジェクションマッピング 災害をミニチュア等で再現 発掘体験(汚れない砂・発掘物を持ち帰れる) 触れられる・体験できる展示 インスタ映えする展示 クイズ形式(景品付き) データが残るゲーム (クイズでレベルが上がるなど) コレクション要素(カード等)</p>	<p>昔の家の再現・農具体験 昔の衣装などを映像で体験 火おこし、消火器体験</p>
機能等	
<p>休憩スペース 目をひくようなオブジェ オリジナルの飲み物・食べ物</p>	

2章 施設計画

1. 施設規模

- 敷地面積：1,600 m²程度
- 延床面積：800 m²程度
- 構 造：鉄骨・RC造 平屋建て
- 整備予定地



2. 施設機能

体験学習施設は、中央防災公園における「平常時の魅力・賑わい創出の施設」と「防災公園としての施設」、これらの2面性を考慮し、平常時、災害時に次の機能を有することとします。

(1) 平常時の機能

① 展示スペース

【規模】 300 m²程度

【設備機能】

- ・展示設計との綿密な連携を図り、展示と空間デザインが調和した設計
- ・開放性と展示演出・効果が両立された計画
- ・基本的に外光を遮断し、紫外線の進入を防ぐ配置計画

② 体験学習スペース

【規模】 150 m²程度

【設備機能】

- ・ 体験学習や清掃に使える流し台を設置
- ・ 床面に清掃しやすい素材を使用

③ 収蔵スペース

【規模】 200 m²程度

【設備機能】

- ・ 温湿度管理など、繊細な保管が必要な所蔵資料を適切な環境で保管
 - ※その他、資料規模や活用状況を踏まえ、収蔵が難しい資料は体験学習施設以外の市内別倉庫にて保管
- ・ 一部の収蔵品を収蔵したまま公開が可能な展示（収蔵展示）
- ・ 搬入口からフラットアクセスが可能な配置
- ・ 収蔵資料内容を踏まえたラック、書架等の配置計画

④ 事務室・トイレ・共用スペース等

【規模】 150 m²程度

【設備機能】

- ・ ユニバーサルデザイン、バリアフリーを考慮
- ・ 施設全体において来館者、資料搬出入などの動線が極力交差しないよう考慮
- ・ 展示等に関する書籍の図書コーナーを設置
- ・ PC 電源、LAN 配線設備の整備
- ・ 施設全体に Wi-Fi 環境を整備

(2) 災害時の機能

① 文化財レスキュー（体験学習スペース）

市域で被災した文化財や歴史資料の一時的保管と応急措置

② 子どもたちの心のケア（展示スペース）

子どもたちの被災ストレスを和らげるため、子どもたちの遊び場として、中央防災公園内の遊具に加え、体験学習施設内の遊び要素のある展示などを活用

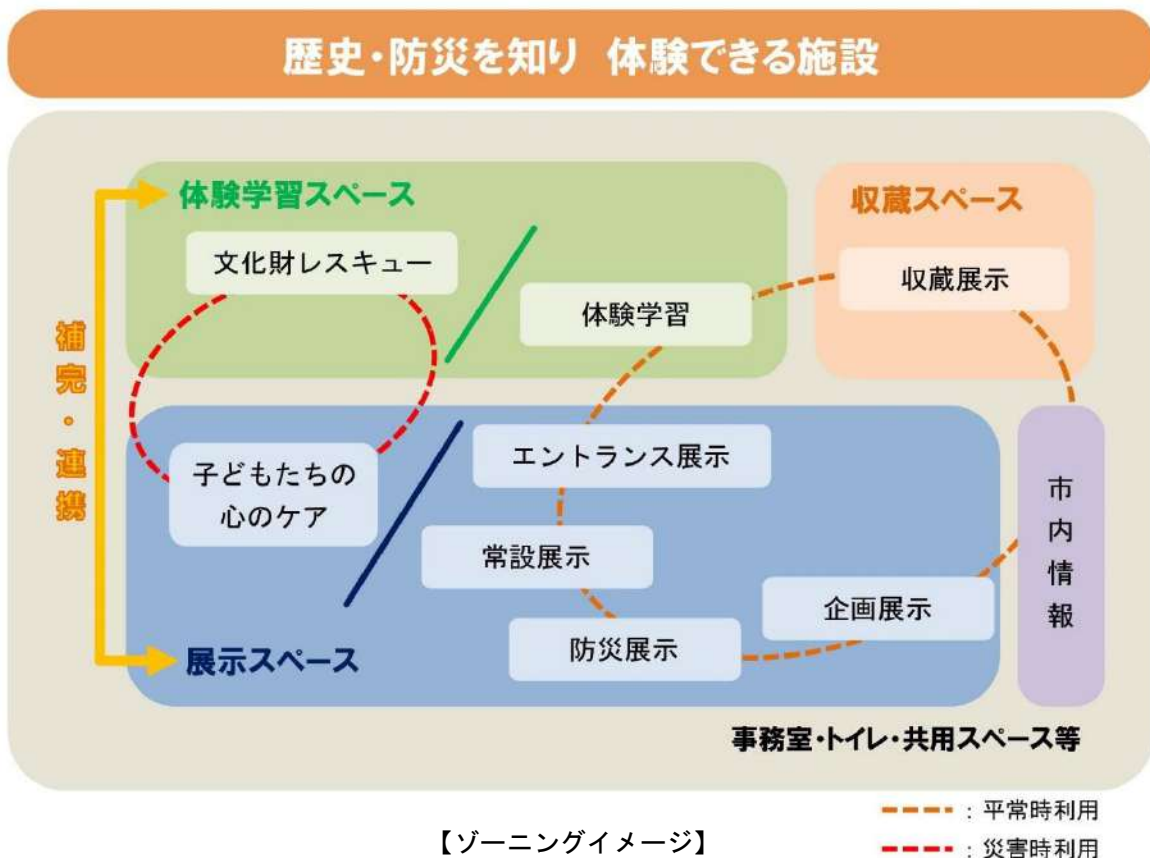
3. 面積表

各機能に対する規模の目安は次のとおりとします。なお、設計時に展示手法等の検討により変更する可能性があります。

機能	面積 (㎡)
展示スペース	300
体験学習スペース	150
収蔵スペース	200
事務室	30
トイレ	30
共用スペース	40
その他 (倉庫等)	50
合計	800

4. ゾーニング

各機能のゾーニングを次のとおり想定し、各展示は周回できるよう、また展示及び体験学習スペースは、相互に補完し合い連携できるよう、配置について配慮するものとします。



3章 展示計画

1. 展示の基本的な考え

(1) 展示のねらい

～来館者自らが楽しく学べる施設～

海南市の歴史・文化や災害、防災知識について、より楽しく学ぶことができる工夫を施し、次世代を担う子どもたちへ伝承します。

(2) 展示の方針

① 来館者の記憶に残る体験・体感ができ、映像等を活用した展示

- ・文字の羅列だけでなく、映像や音響技術を効果的に利用した分かりやすく、更新性を持った展示や、実際に触れることができる展示等、五感を通じて記憶に残るような展示を行います。
- ・来館者が見たいものを選択出来たり、行動により表示などに変化が生じる飽きない展示を行います。

② 子ども目線の展示

- ・海南市の歴史や文化、また防災知識等の伝承の担い手となる子どもたち、とりわけ小学校低学年にも分かりやすいことを基本にするとともに、楽しく遊びながら、大人も一緒に学べる工夫を施します。

2. 展示の構成・テーマ

① エントランス展示

海南市民や初めて海南市を訪れた人にも、海南市の概要を理解してもらえよう、歴史や地形、産業などや、海南市で過去に起こった災害、今後、想定される災害についてのガイダンス的な展示をします。

- ・視覚的に理解しやすいようプロジェクションマッピングやデジタルコンテンツを効果的に活用
- ・自主的に表示内容を選択でき、触れたり体験できる機能

【展示例】



【雲仙岳災害記念館】



【おしかホエールランド】

② 常設展示

海南市の歴史を知ってもらえるよう、古代から近代に至るまでの歴史や災害史を展示します。

- ・ 視覚的に理解しやすいよう必要に応じてデジタルコンテンツなどを効果的に活用
- ・ 自主的に表示内容を選択でき、触れたり体験できる機能
- ・ 子どもたち（特に小学校低学年）が繰り返し遊んで楽しめる工夫
- ・ 来館者に市内の文化財や名所の情報提供を行い、各地へ導く機能

【主なテーマ】

■ 古代の海南

～地中に残された災害あと～

■ 熊野参詣道と海南

～呼び上げ地蔵の伝承～

■ 井澤弥惣兵衛と海南

～治水工事の功績～

■ 万葉歌と海南

～歌に詠まれた風光明媚な地形～

■ 大野城と海南

～中世山城と地形～

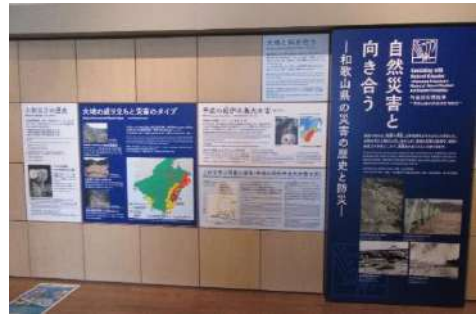
■ 海南の災害史

～過去の災害と巨大地震への備え～

【展示例】



【大阪歴史博物館】



【南紀熊野ジオパークセンター】

③ 防災展示

海南市で想定される災害の危険性や防災に役立つ情報の展示を行います。

- ・ 自主的に表示内容を選択でき、触れたり体験できる機能
- ・ 子どもたち（特に小学校低学年）が繰り返し遊んで楽しめる工夫
- ・ 防災グッズの展示スペース

【展示例】



【埼玉県防災学習センター】



【名護市防災研修センター】

3. 企画展示

常設展示で取り上げていないテーマや、常設展示や防災展示の展示内容をさらに詳しく紹介するなど、期間を区切った展示を行い、体験学習施設の魅力向上や集客を図ります。

- ・ 海南市の歴史・文化に限定せず、他都市の資料館等からの借用物の展示
- ・ サブカルチャーなどをテーマとした幅広い展示

【展示例】



【姫路文学館】

4章 体験学習計画

1. 体験学習の基本的な考え

(1) 体験学習のねらい

～過去から学び、未来に生きる体験ができる施設～

歴史・文化並びに自然災害の仕組みや危険性、防災について、実際に体験して学ぶことができる実験・体験プログラムを提供します。

(2) 体験学習の方針

① 過去から学び、未来に生きる体験学習

- ・先人が残した知恵から歴史・文化を学べるものに加え、過去の災害時に役立った知識や技術など、学んだことが未来の災害時に生きる体験学習プログラムを実施します。

② 遊んで学べる体験学習

- ・「遊び」や「実験」など、子どもたちが参加しやすい要素を取り入れることで、「学び」の敷居を低くし、より多くの子どもたちに歴史・文化並びに災害や防災の学習の場とします。

2. 体験学習プログラム

① 防災プログラム

自然災害の仕組みや危険性、防災を学ぶことができる実験・体験学習を、来館者等のニーズを踏まえた上で実施します。

- ・火おこし体験や昔の道具の使い方など、先人の知恵・技術から災害時に生きる知識・技術を学べるプログラム
- ・「遊び」や「実験」を通じ、災害時に生きる知識や技術を学べるプログラム
- ・中央防災公園内の他の施設や、市内外の公共施設・市民等と協力したプログラム

【イメージ写真】



② 歴史・文化プログラム

現歴史民俗資料館においても体験学習を行っています。来館者等のニーズを踏まえ、拡充して実施します。

- ・ 昔のくらし体験など、先人の知恵・技術を学べるプログラム
- ・ 「遊び」を通じ、歴史・文化を学べるプログラム
- ・ 中央防災公園内の他の施設や、市内外の公共施設・市民等と協力したプログラム

【イメージ写真】



5章 管理運営計画

1. 運営体制

管理運営については、中央防災公園の運営形態を含め多角的に比較検討し、施設に最も適した手法によって行うものとします。なお、施設の性質・規模を考慮する中で選択肢となり得る手法は、以下のようなものがあります。

(1) 直営

市による管理運営

(2) 指定管理者制度

民間事業者による管理運営

2. 運営

(1) 開館日

展示収蔵資料や施設の維持管理を適切に行う必要があることから、一定の休館日や資料の整理、展示更新など特別休館日を設けることを検討します。

(2) 入館料

体験学習施設に訪れやすくなるよう、無料の方向で検討を行います。

なお、体験学習プログラムの材料費等については、実費負担を求める予定としています。

(3) 開館時間

企画展や各種イベント開催時等には開館時間を変更するなど、柔軟に対応できるよう検討します。

3. 名称

展示内容などを踏まえ、対象とする分野や活動を表すものとして、今後、正式名称をはじめ、来館者に親しまれる愛称や略称なども検討します。

4. 集客（誘導について）

(1) 中央防災公園内の施設等との連携やネットワークの構築による取り組み

移転が予定されている和歌山県立自然博物館をはじめ、中央防災公園内の他の施設及び近隣の施設と集客に向けたネットワークづくりや、連携した展示・体験学習プログラム及び共同イベントの開催等も検討します。

また、屋外展示や飲食スペース、駐車場、利便性を考慮した施設へのアクセス経路についても、中央防災公園全体の整備を進める中で検討します。

(2) 市内各所への誘導・回遊

市外からの来館者に対し、市内各所への誘導・回遊に繋がる体験学習やサービスを検討します。

6章 事業計画

1. スケジュール

施設整備に係る事業スケジュールは、次のとおりです。

項目	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)
地質調査	■				
基本設計	■				
実施設計		■			
建設工事			■	■	
準備期間				■	●開館

2. 概算事業費

想定される概算事業費は、次のとおりですが、基本設計等、具体的な整備内容を検討する中で変動します。

総事業費	407,000 千円
①地質調査	4,000 千円
②基本設計・実施設計	27,000 千円
③建設工事費	376,000 千円